

伊能忠敬使用の測量道具 模造

伊能忠敬記念館 所蔵
重要文化財

歴史資料・模造

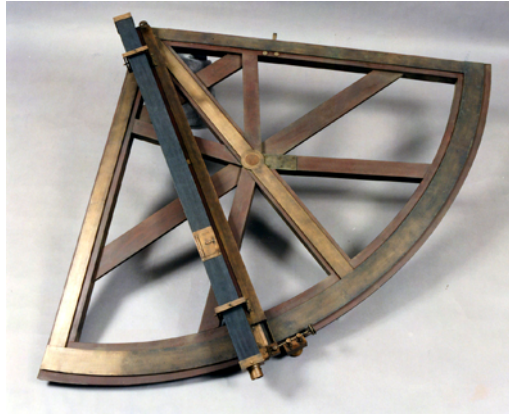
量程車はあまり実用的でなかったらしい。絵の具だけで彩色したのではなく、薬品を用いて腐食させて、絵の具は微調整とコーティングに使用した。



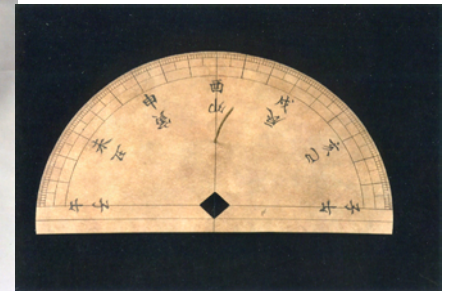
量程車



象限偽 (中)



紙製分度器



伊能忠敬は江戸時代、日本国中を測量してまわり、初めて実測による日本地図を完成させた人です。

忠敬は、延享2年（1745年）現在の千葉県九十九里町で生まれ、横芝光町で青年時代を過ごし、17歳で伊能家当主となり、佐原で家業のほか村のため名主や村方後見として活躍します。

その後、家督を譲り隠居して勘解由と名乗り50歳で江戸に出て、55歳（寛政12年、1800年）から71歳（文化13年、1816年）まで10回にわたり測量を行いました。その結果完成した地図は、極めて精度の高いもので、ヨーロッパにおいて高く評価され、明治以降国内の基本図の一翼を担いました。資料は測量具を模造したものです。

KYOTO KAGAKU CO.,LTD
Preservation and Restoration of Cultural Property

tel.075-605-2510
fax 075-605-2519
rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp

<http://www.kyotokagaku.com/jp>
rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp